

しんじゅくコール ☎ 3209-9999  
土・日曜日、夜間もご案内  
受付時間:午前8時~午後10時  
FAX 3209-9900

聴覚に障害がある方で「ファックス番号のない記事」  
へのお問い合わせは、しんじゅくコールのファックス  
をご利用ください。  
※本紙に記載の電話番号は市外局番(03)を省略しています。



新宿区長  
吉住健一

# コロナ対策は秋冬が 正念場

感染症が流行しやすい秋冬がやってきます。新型コロナが収束していない中では、気を緩めず感染対策に取り組む必要があります。

今回は、吉住区長が治療の第一線で奮闘する感染症の専門医と、新型コロナの現状や一人一人ができるこれからの対策について、意見交換を行った様子をお伝えします。



国立国際医療研究センター  
国際感染症センター長  
おおまがりのりお  
大曲貴夫 先生

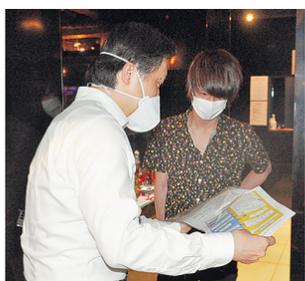
## 油断できない新型コロナの現状

**区長:**新型コロナの現状をどのようにとらえていますか。

**大曲:**東京都で毎週、都全体のデータを見て議論していますが、数字的にもいい兆候を少し感じています。また、国でも解析をされていて、複数の先生方が新規患者発生のピークは8月上旬辺りで終わっているのではと意見されています。

私としては期待はしてはいますが、お盆期間は検査数が少ないので新規感染者の増減が明確には読めないこと、お盆期間の人の移動がどのような結果になるのかが不透明なので、今の時点でピークを過ぎたと判断するのは早いかと思っています。

**区長:**お盆過ぎころから若い方が繁華街に戻っている印象があります。



7月の4連休の前に、感染を止めるために1か月間は生活習慣を変えることを呼び掛けるキャンペーンを若い方とともに行いました(写真)。キャンペーン

から1か月経ったお盆明けの時期は、感染者数が減っていることもあり油断が生じているのかなと心配しています。

**大曲:**そうですね。すでにピークを過ぎたのではという意見が国の会議で出たときはマスコミで

も大きく取り上げられましたし、それで安心してしまっているのではと思います。いい情報が流れると人の動きが元に戻って感染が収束しないことを3月や5月末に見ているので、私もとても心配です。

感染が落ち着いてきたことは喜ばしいですが、そこを畳み込んで抑えないと確実に再び感染が拡大することを発信しなければと思います。これからの季節はインフルエンザも懸念されるため、より一層の注意が必要です。

## PCR検査の効果的な実施

**区長:**5月末に感染が落ち着いた時期がありましたが、新宿の場合はクラスター調査を進めたこともあり、6月・7月は新規感染者数が激増しました。そのころのことをどうお考えですか。

**大曲:**勉強会を重ねてきた新宿区の繁華街対策の取り組みは効果があったと考えます。未曾有の事態への対策として日本全国に影響を与え、大きな役割を果たしたのではないのでしょうか。

感染が落ち着いたとしても感染状況の前兆を早くつかむことが大切です。そうすれば感染が広がりつつあるところに注意喚起を早めに出せるし、特定の場所に新規感染者が出たときに接触した方をすぐに調査できれば、感染は拡大しないのではと感じています。

**区長:**感染者数が増えてきている家庭内感染のほか、介護施設などは利用者が利用施設を掛け持ちしていることもあり、感染者が1人でも複数の施

設に波及して感染が現れる現状があります。

1日に検査できる数が限られている中では、高齢者が利用する特定の場所を優先して検査する必要もあると思っています。

**大曲:**そのとおりですね。介護施設の利用者などは重症化する危険性が高いこともあり、最優先に検査を行うべきだと私も思います。あるいは、新宿区でも飲食店などのクラスター調査を行っていましたが、明らかに感染の可能性が高い人たちを優先して検査していくべきだと思います。

**区長:**ニューヨークなどではかなりの数の検査が受けられるようになっていますが、検査の頻度を増やせば感染拡大を防ぐことにつながるのでしょうか。

**大曲:**難しいですね。例えばスポーツ選手が感染したという報道を見るとありますが、彼らは定期的に検査を受けているように思います。それでも感染者が出ているので、どれくらいの頻度で検査すれば感染を防げるかは分かりません。

もちろん定期的に検査をすることの意義については議論の真っ最中なので否定はしませんが、検証ができていない今の段階では感染拡大防止への効果については分かりません。

2面に続く

区内の新規感染発生状況(8月31日まで)



新宿区のPCR検査受診者(6月~8月)

